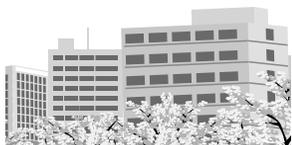


会員の広場



蝶を呼ぶ庭

高田 英生（東京）

駐車場周りが殺風景なので、今年そこに花壇を造ることとした。冬場から天地返し、腐葉土・肥料の漉き込み、苗作り、植え付けなど、例年の庭仕事に加えての作業は思いのほか時間を要した。

以前からあったアジサイ、ぎぼうし、ミズ

ヒキ、リュウノヒゲに、鉢植えにしていた菊、白妙菊、サルビア（赤、青）、ペゴニアを加えた。この夏から秋、夫々に咲いているが、花の組合せ等の所為か、いささか寂しい。鉢物とは異なる工夫が必要である。

私の住む大田区は、崖線による変化のある地形や河川、臨海部の水辺空間、羽田空港など多様な顔を合わせもち、まだまだ多くのみどりと生き物がある。勿論、近年、民有地ではご多分に漏れず、緑被率は減少傾向を辿る。かろうじて残ってきた個人宅の樹木もアパー卜建設などに伴い伐採されている。

区内の自然環境や施設などを見学する機会があり、いろいろ参加してみた。

東京港野鳥公園ではカモなどの冬の渡り鳥

に混じりオオタカやカワセミに遭遇。来日観光客も訪れる隠れた観光スポットである。また、かつては、潮干狩、海水浴と鉱泉街で広く知られた森ヶ崎には、国内最大の下水処理施設が建設され、その施設屋上では玉砂利の河原や砂浜など本来の繁殖場所を失ったコアジサシの営巣を保護している。レッドリスト掲載のカモメ科の小鳥である。

多摩川の葦原は、今や数が少なくなったといわれるツバメのねぐら。夏の夕暮れ、ツバメが一斉に葦原に隠れるのは壮観である。他方、葦原が外来種アレチウリに席卷されつつある河原もあり、駆除活動が地元の有志により地道に行われている。

更に、多摩川河口干潟は、東京湾に残る数少

ない干潟の一つであり、様々な貝類やカニ類が見られ、学童の自然体験の場になっている。同様に、池上本門寺のスタジイの森ではセミの羽化の観察会、洗足池では冬鳥の観察会も区民向けに開かれ、参加者は抽選である。

近くの学校跡地が公園に整備されつつあるからか、近時、我が庭にもアゲハチョウ等も来てくれるようになった。区では、2020年に向け、街の魅力の向上をめざし、アオスジアゲハの飼育実験、バタフライガーデンの整備などに取り組み、また、区民の庭やベランダに蝶の好む草花を植える呼びかけもしている。

当座の花壇つくりで手一杯であったが、我が家の庭も蜜源植物と食草を育てれば、私もオーレリアン?!